

2018年3月期 決算説明会 主な質疑応答記録

日時：2018年4月27日（金）14:30 ～ 15:30

出席者：代表取締役 社長執行役員 横田 浩
取締役 常務執行役員 財務部門長 浜田 昭博

1. 2018年度の営業利益予想が2017年度比減益について

- Q1 : 原燃料のコスト増加が105億円となっていますが、かなり保守的に見ていませんか。
- A1 : 原油、石炭がコスト増加の主なものですが、当初想定よりも緩やかな上昇にとどまっていますので、それが続く場合、現時点の市況から見れば保守的かもしれません。
- Q2 : 苛性ソーダの値上げが10円/kg程度と推察しますが、新聞で報道されている他社と比較すると低いように思います。もっと値上げが進み利益が増えるのではないですか。
- A2 : 苛性ソーダの価格修正は前年度にかなり進捗しました。今後も価格修正を継続することと、販売単価の高い輸出を増やすことで、もう少し上がり幅はあると考えています。
- Q3 : 「その他」の営業利益が27億円減少していますが、理由を教えてください。
- A3 : 主に、発電所の定期修理により販売できる余剰電力が減少するためです。
- Q4 : 減益予想を出していますが、保守的な前提を置いているのは企業風土なのでしょう。また社長の目線は常に上を見ているのか教えてください。
- A4 : 「最も重要な経営課題である組織風土改革が進んでいないのでは」とのご指摘と思いますが、風土改革については社内で相当な議論をしております。「保守的な前提の数字」についても、予算策定のプロセスそのものを抜本的に見直す必要があると感じています。それも風土改革の一つであり、翌期に向けてしっかりと取り組んでいきます。

今回、減益予想を出していますが、2018年度はもっと収益力を上げられると思っています。例えば、生産サイドでは物流のコストダウンなど各種の試み、営業サイドでは苛性ソーダの販売構成の見直し、先端分野では電子材料を中心に投資などでトップラインをもう一段上げることを考えております。

社長の目線ですが、「上向きでいきたい」というところでもあります。

2. 成長事業について

Q5 : ICT についてはいかがですか。

A5 : 半導体関係の電子工業用薬品は台湾が成長ドライバーになっていますが、現像液の増産につきましても韓国での JV パートナーと協議をしています。放熱材は半導体製造装置向けが非常に伸びていますので、今後 1~2 年の間にさらに追加投資の実施も検討していきます。

Q6 : 半導体用途向け多結晶シリコンの増設の予定はありますか。

A6 : 今は品質改善に関する投資をしっかりと行うことが肝要と思います。

Q7 : ライフアメニティーのヘルスケアについてはいかがですか。

A7 : 歯科器材やメガネ材料は新製品の投入を予定していますので、2019 年以降伸張すると見えています。医薬原薬や診断薬の収益への寄与は 2021 年度から始まる次の中期経営計画の時期に成果が表れると考えています。

3. 財務関係と劣後ローンについて

Q8. : 財務的な目標として、一番優先順位の高いものはシングル A 格の取得という姿勢に変わりはないでしょうか。

A8 : はい、変わりはありません。

Q9 : 劣後ローンは今後どうするのでしょうか。

A9 : 現時点では何も決まっておりませんが、あらゆる検討をしているところです。